

「ミドリシジミの標本(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

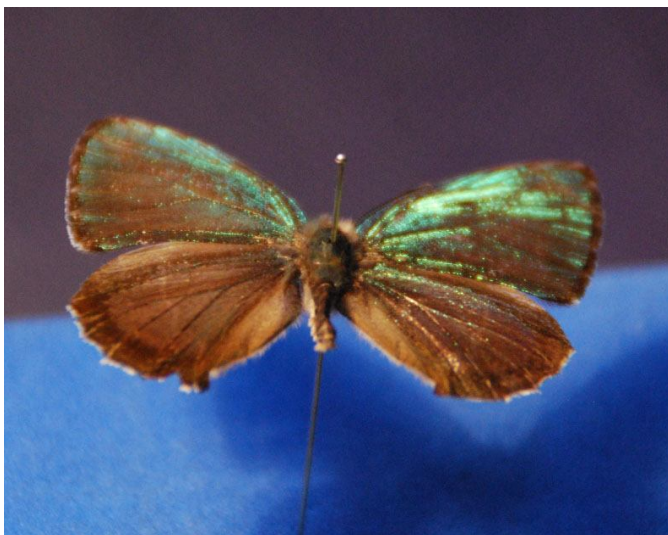
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ミドリシジミの標本を見ていて面白いのは、光の当て方によって、緑に光ったり光らなかつたりする部分があることだ。どうやら、鱗粉そのものが緑色なのではないようだ。



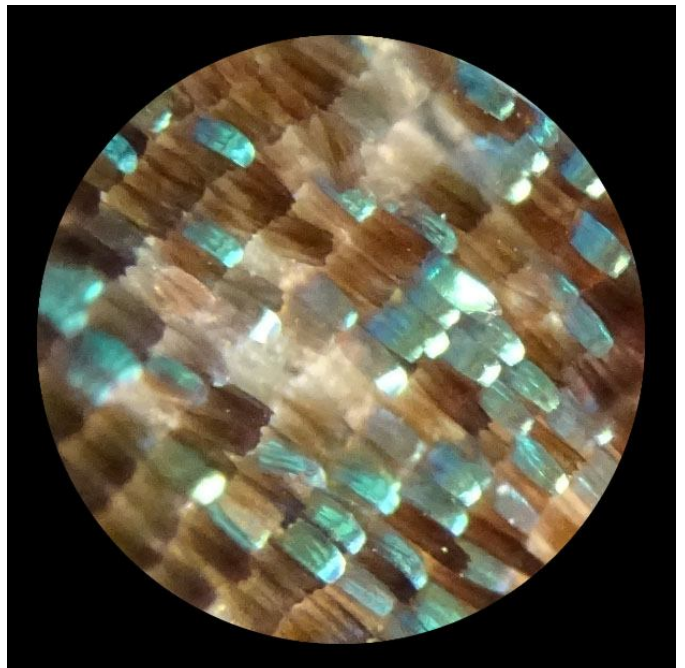
標本の正面から光を当てると、縁取りの黒っぽい部分を除くと、翅全体が緑色に輝いて見える。



昆虫針をスチレンフォームに斜めに刺して、チョウも後部からやや水平に近い角度で見ると、緑色に輝く部分がほとんどなくなってしまう。もし翅そのものや、鱗粉に色がついているのなら、このような現象は見られないはずだ。やはり、鱗粉に光が当たる角度で、発色して見えているようだ。



今度は標本を左右に傾けてみた。この場合も、角度によって緑に輝く部分が移動することがわかった。



あとは顕微鏡で観察してみるしかない。翅の一部が標本箱の中に脱落していたので、それをピンセットで拾って、100倍で観察してみた。これは美しい!全部の鱗粉が緑色ではないのも面白い。